

東洋エンジ、日立が豪州イースタン・スター・ガス社から 中規模電動 LNG プラントの基本設計 (FEED) 実施の内示を受領

2011年2月7日
東洋エンジニアリング株式会社
株式会社日立製作所

東洋エンジニアリング株式会社(取締役社長：山田 豊/以下、東洋エンジ)と株式会社日立製作所(執行役社長：中西 宏明/以下、日立)は、このたび、豪州のガスおよびコールシームガス(CSG)*の開発会社であるイースタン・スター・ガス社(本社：シドニー/以下、ESG)から、オーストラリア・ニューサウスウェールズ州のニューキャッスルにおける中規模電動 LNG プラントの基本設計 (FEED : Front End Engineering Design) 実施の内示を受領しました。本件は、東洋エンジと日立が2010年5月よりニューキャッスルで行ってきた、中規模電動 LNG プラントの事業化調査の良好な結果を受けて、プロジェクトが一步前進したものです。ESGは、2012年第1四半期(1月~3月)までに中規模電動 LNG プラントに関して最終投資決定を行い、2015年にはLNGを輸出することを計画しています。

今回の基本設計では、LNG 液化設備のほか、LNG タンク、LNG 出荷設備の最適化・基本設計・コスト積算を2011年末までに実施する予定です。LNG 液化プロセスにおいては、米国チャート社のLNG 液化技術と主要液化機器の供給を受けます。

中規模電動 LNG プラントは、建設費用が低減できること、検討から建設までの期間を短く出来ること、信頼性が高くエネルギー効率がよいこと、環境へのインパクトが少ないこと、生産規模を漸次拡張可能でCSG 開発に最適であること、敷地面積が少なくて済み低騒音であることなど、ニューキャッスルにおけるESG のLNG プロジェクトに適したLNG プラントです。

本プロジェクトで採用する中規模電動 LNG プラントは、鉄道車両・鉄鋼プラントなどで培った日立の電動化技術を強みに持ち、ニューキャッスルでESG が購入した24ヘクタールの建設用地に当初年産100万トンで設計され、将来的には400万トンまで拡張することも期待されています。

本件は、東洋エンジと日立が協力して進めている中規模電動 LNG プラントに関するプロジェクトで初めて基本設計を実施するものであり、今後の事業拡大に向けた重要な取り組みとなります。中規模 LNG プラントは、中小規模ガス田の有効利用の観点から需要拡大が期待されており、両社はこれを機に今後も共同でグローバルに事業を拡大していきます。

* コールシームガス(CSG) : オーストラリアではコールシームガスと呼ばれるが、一般には炭層ガス(CBM)と呼ばれる石炭層とその周辺から採掘されるメタンガスのこと。

■お問い合わせ先

東洋エンジニアリング株式会社 広報・IR室 [担当：川腰]
TEL：047-454-1113 (直通)

株式会社日立製作所 社会・産業インフラシステム社 海外プロジェクト室 [担当：田辺]
〒101-8608 東京都千代田区外神田一丁目18番13号
TEL：03-4564-6269 (直通)

■報道機関お問い合わせ先

東洋エンジニアリング株式会社 広報・IR室 [担当：川腰]
TEL：047-454-1113 (直通)

株式会社日立製作所 ブランド・コミュニケーション本部 広報・IR部 [担当：下河原]
〒100-8280 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号
TEL：03-5208-9325(直通)

